

パブリックセクター 地方自治体向け 特別セッション

Google
Cloud
Next

Tokyo

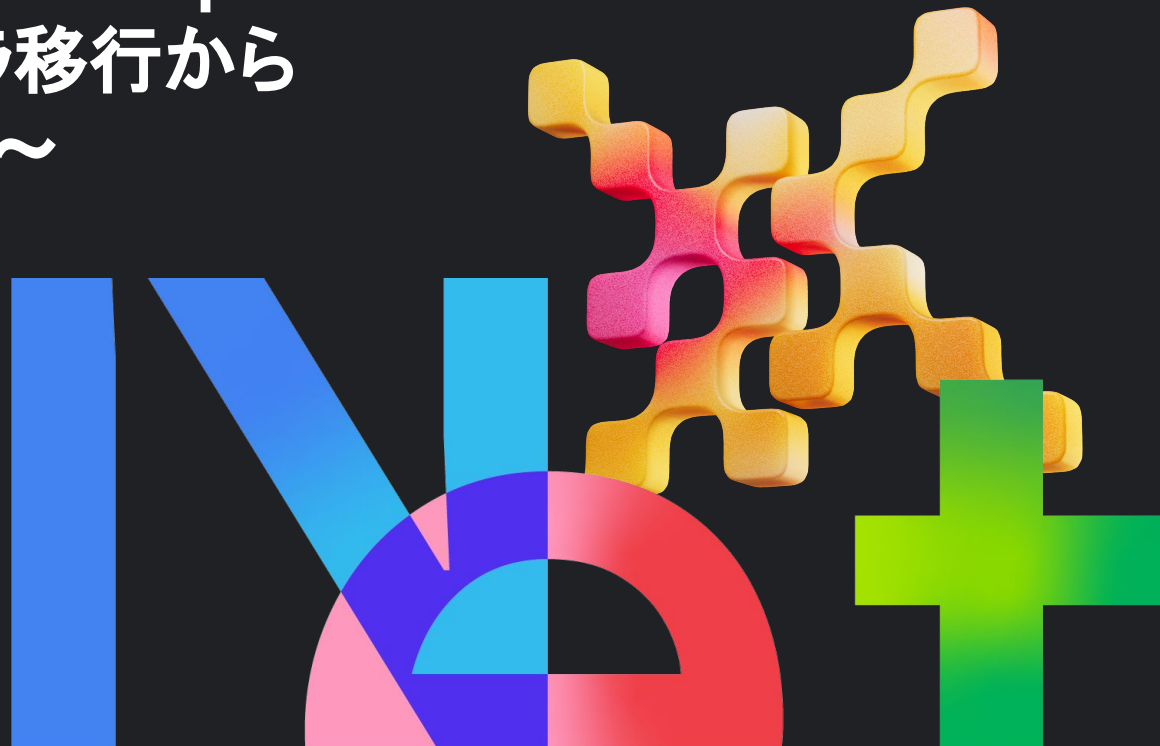


徳島県 DX の現在地と展望

～2年での Google Workspace
全庁導入・β / ゼロトラ移行から
AI 活用拡大に向けて～

Google
Cloud
Next

Tokyo



上田 紘嗣

徳島県 副知事
兼 最高デジタル統括責任者(CDO)





上田紘嗣

徳島県 副知事 兼 CDO

- 平成 16 年総務省入省。
- 総務省、内閣官房、外務省、個人情報保護委員会、厚生労働省にて、公務員制度改革、マイナンバー制度、骨太の方針の策定等に携わる。
- 滋賀県、徳島市財政部長、沖縄市副市長、北九州市デジタル政策監、同財政局長など地方での勤務も経験。
- 仏・ストラスブール政治学院及び国立行政学院（ENA）に留学、仏・行政機関内で約 9 か月のインターンも経験し、世界標準の制度・働き方を、理論・体験の双方から学ぶ。
- 総務省自治大学校教授、大臣官房企画課長補佐等を経て、令和 6 年 4 月徳島県企画総務部長、令和 7 年 4 月同政策監、令和 8 年 4 月より現職。

徳島県 DX の 現在地と展望

～2 年での Google Workspace
全庁導入・β / ゼロトラ移行から
AI 活用拡大に向けて～

01

働き方を変える

02

ゼロトラスト

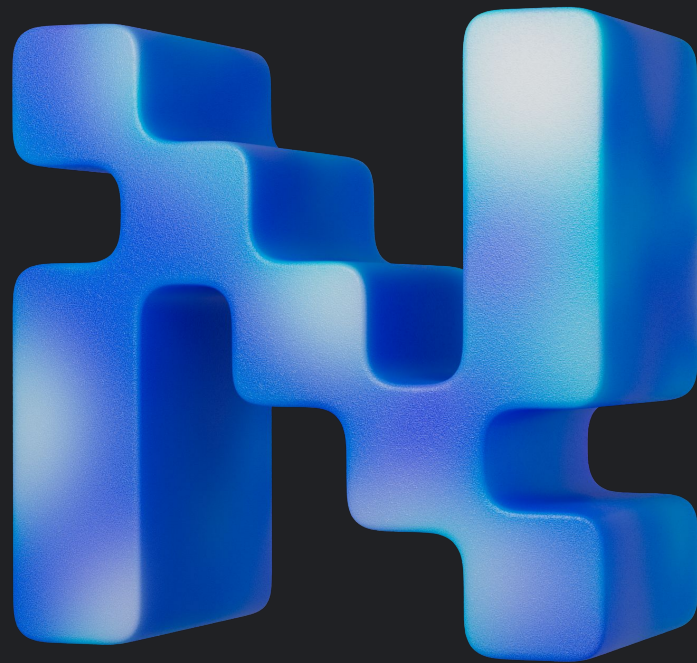
03

内製化と AI-Ready

04

自らの経験を踏まえ

01. 働き方を変える



日本と西欧のモデルの比較

伝統的日本モデル

意思決定の流れ：ボトムアップが好まれ、担当者の広い裁量と経路依存（稟議制）。

→ 制度化されることも多い。

強み：安定した環境において、確実に事務遂行。

西欧モデル（※）

仕事の伝達：上位から下位へ、意図を明確に伝えるスタイル。

強み：責任を伴う高度な判断とスピーディな実施。

※概ね 1980 年代ごろまでのモデル

地方公共団体は、直接公選の首長による行政運営。

地方公務員法は、上司の職務上の命令に従う義務を法定。

⇒ **民主主義的観点**からは西欧モデルに親和性あり

緩和型コミュニケーションへの道筋



ルール設計

現場の実情に即しつつ、
心理的安全性と予見可能性
を担保するルール作り



絶えざる検証

ルールの実現可能性を
職員を含む関係者と常に検証し、
改善し続ける運用の手法



泥臭い実践

事前共有、オンライン化、
そして自ら所属へ足を運ぶ
チームビルディングの徹底

「ボトムアップかトップダウンか」の二元論ではなく、
日本行政の現場に根ざし、それを活かす新しいガバナンスの提案

⇒ 「トップ・経営/管理層による環境構築」と
「健全なボトムアップ」のマリアージュ

緩和型コミュニケーションへの道筋



データ事前共有の徹底



ペーパーレス・オンライン



グループウェアの十全活用



関係者との「足まめ」な対話

プラットフォーム刷新に向けて

現行環境を使い倒し、PF 刷新の必要性を肌身で認識。

Google Workspace 採用は、
「ブランドありき」ではない。
「適法・適正手続きで採用したものを、
十全に使い倒す」。

その上で何が足り、何が足りないかを精査。

⇒行政の働き方とマインドセットを変革する
PF へと刷新。

しごとのルール設定 (R6 企画総務部事務執行指針を参考に)

上流段階での関与を構造的にデザイン

⇒ リードタイムマネジメントと手戻り極小化

基本姿勢

- 心理的安全性と予見可能性を担保
- 事務の質を高めつつ、負担を軽減
- 部長が責任を取り、担当者が過度に責任を負わない

コミュニケーション

- 速報・相談：
端緒把握で即一報
- ツール：
メール・回覧機能の活用
- 編集あり → Word 履歴
編集なし → 回覧

スピード重視

- 2 ～ 3 割の粗い段階で相談
- 原則「まとめてレク」
- ペーパーレスで議論

「非同期型」レクスタイル

情報の透明化と隙間時間の活用による、



随時の情報共有

- ✓ セキュアなチャット環境の活用
- ✓ メンバー全員が必要な情報に即アクセス
- ✓ 「報告のための報告」を排除



シームレスな準備

- ✓ カレンダー登録と同時にファイルを添付
- ✓ 会議 URL と資料が常にセットで存在
- ✓ 探す手間をゼロにするワークフロー



ドキュメント対話

- ✓ 論点を可能な限り事前解消
- ✓ 修正と合意を並列して実行
- ✓ 提案モードで共同編集し、レクの場合事後のチャットで責任を持って解決

MANAGERS / 管理層

隙時間に事前レビュー・コメント

場所・時間を問わない 「完全非同期」型

出張中・移動時も並列して進行

COLLEAGUES / 関係職員

レク前にコメントへの返信・修正

どこでも仕事ができる、組織を停滞させない

物理的な距離と階層の壁を越え、リーダーと現場が「即時シンクロ」する環境へ



Borderless Leadership

ブラウザベースの環境なら、世界のどこにいても
部下とシンクロして仕事が可能。



国内拠点



世界どこでも



Flat Communication

リーダーを含む全員が即時に情報を共有。問
題を抱え込まず、スピーディな事業実施や問題
解決を図っている。

従前

担当



中間



承認

現在

現場・チーム



リーダーへ即時共有

02. ゼロトラスト



Google との連携によるゼロトラスト推進

過去例のないスピードでの導入と、安全性・利便性の両立

CONTEXT & TIMELINE

徳島県において過去に例のないスピードで Google Workspace を導入。

令和 7 年 1 月、徳島県とグーグル・クラウド・ジャパン合同会社の連携協定締結

Google のセキュリティへの期待

CURRENT CHALLENGES

県・市町村の**人材確保が困難度**を増す中、
高度なサイバーセキュリティ人材の確保は実質的に不可能。

STRATEGY

自治体におけるサイバーセキュリティの確保は、
トップ企業の人材・サービス活用 が現実的

Google との連携によるゼロトラスト推進

TECHNICAL SHIFT (ARCHITECTURE)

旧来

α' モデル

三層の対策



新採用

β モデル

インターネット側に端末を配置

Google Workspace のゼロトラストセキュリティを前提とすることで実現。

Cloud Identity, Chrome Enterprise Premium
Identity-Aware Proxy

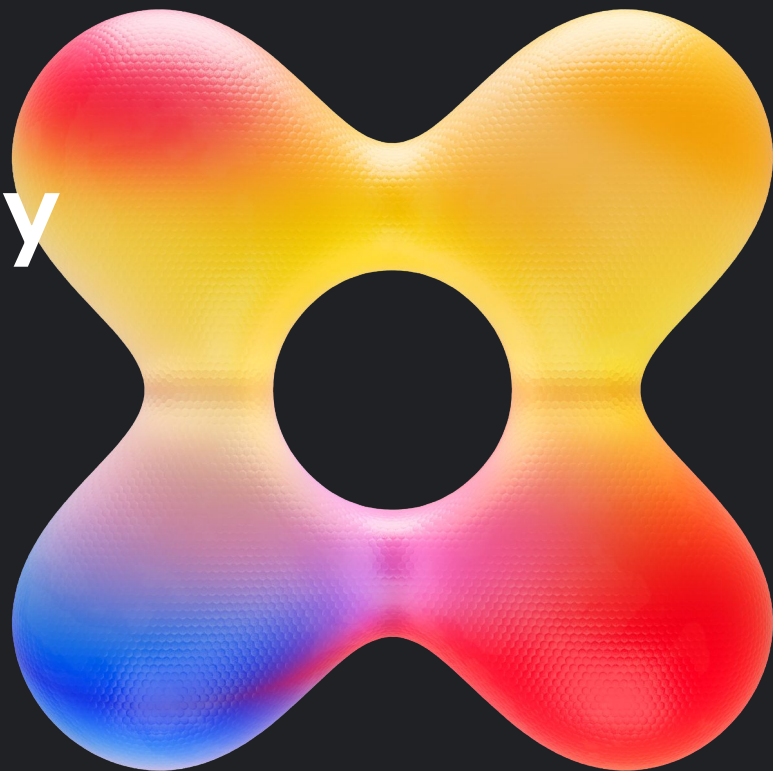
ADMINISTRATIVE VALUE

高度なセキュリティも確保し、提供する情シスサイドの安心感も確保。

STAFF ENVIRONMENT

ライフワークバランスが実現しやすい環境を構築。

03. 内製化と AI-Ready



安全な生成 AI と高い利用意欲

75%

職員のアクティブユーザー率

Google Workspace with Gemini / Gemini Notebook 導入済

安心・安全に使うための環境構築

- ✧ 「意図せず」使われている現状から、**セキュアな環境**での活用へ転換
 - ✧ 機密情報の保護を前提とした**ガイドライン**の策定・運用
 - ✧ **知的財産権保護**を確保し、
職員が安心して挑戦できる体制
- 主な用途：議事録作成、メール下書き、壁打ち、
イメージ生成など多岐にわたる活用

Gemini による内製化と「AI-Ready」への変革



Gemini による内製アプリ開発

職員自ら**コーディング**を行い、**約 60 のアプリ**が本番稼働中。
現場主導の DX が加速。

県立病院職員が、Gemini のサポートで Python を活用し、**2~3 か月という短期間**で病床管理をダッシュボード化。



AI-Ready な体制

スキャンされた文書でも一定以上の検索性が確保。
→**AI が即座に活用できる体制**構築を目指す。

AI Agent への期待

防災・BCP・復帰レジリエンスの観点からも **テキスト化、クラウド化**を推進。
⇒まずは Google Meet 等を活用し、**宙に消える言葉**をテキストとして**資産化**

<想定ステップ>

Step 1: 領域拡大

総務事務、庶務、予算管理、財務会計など、定型業務への展開



Step 2: AI Agent 活用

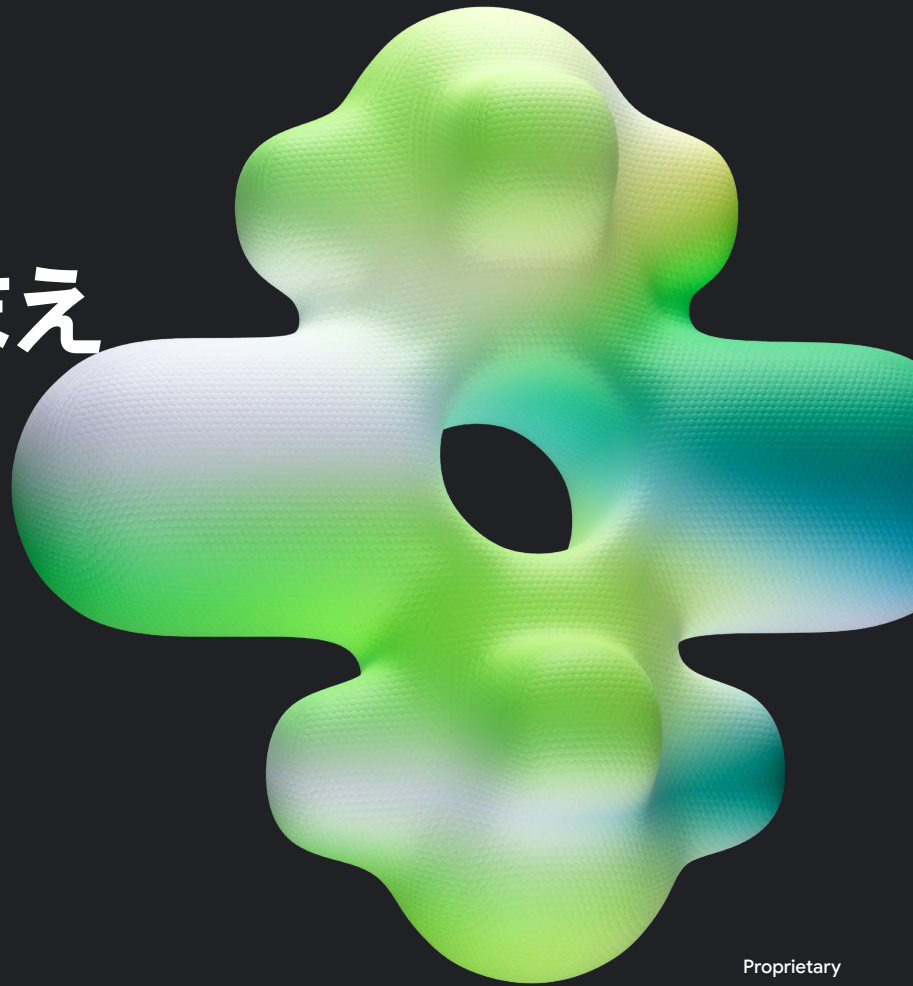
AI Agent が実務サポート。
法規範の整理と並行して
導入加速



Goal : 価値の最大化

職員が**本来の政策に専念できる環境**を作り出し、行政サービスを向上

04. 自らの経験を踏まえ



日本の働き方とデジタル活用の調和

⚠ 現状のミスマッチ

日本の働き方と西洋由来のデジタルは、
設計思想が一致していない。

デジタル活用に苦勞するのは当然では？



💡 適したアプローチ

西洋型の仕組みを参照しつつ、

日本のよいところを活かしていく。

10 年以上かけ、複数地域での実行可能性
を検証・確認。

🏢 Google Workspace を採用した徳島県では、
県内の市町村にも**共同で採用等**できないか、試行的に声掛け。

戦略的共同調達と人材確保



共同調達の推進

他県等との共同調達は、
有利な財政措置も存在。
国全体で調整することも
効果的な選択肢。



人材シェアの論点

公務員の人材シェアも、
考えるべき論点。
まずはナレッジシェアから。
⇒ Google Workspace の
導入セッションも実施
@toku-Noix（とくのわ）



次世代への環境作り

公務員の人材確保が
極めて困難に
⇒ 国民的な論点
となってよいのでは？

将来、徳島県で働きたいと思ってもらえるような、魅力ある働く環境を作っていく

UI / UX に敏感な人材が、スムーズに職業選択できる環境整備を目指します。

ご静聴ありがとうございました。



私たちが Google Workspace を選んだ理由と 目指している働き方

Google
Cloud
Next

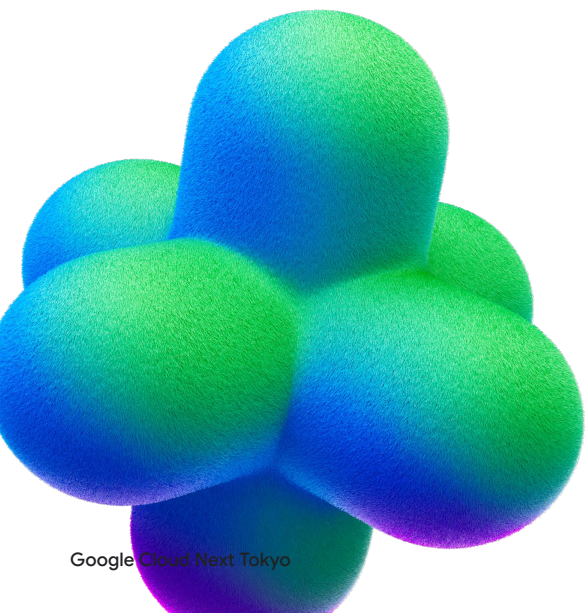
Tokyo





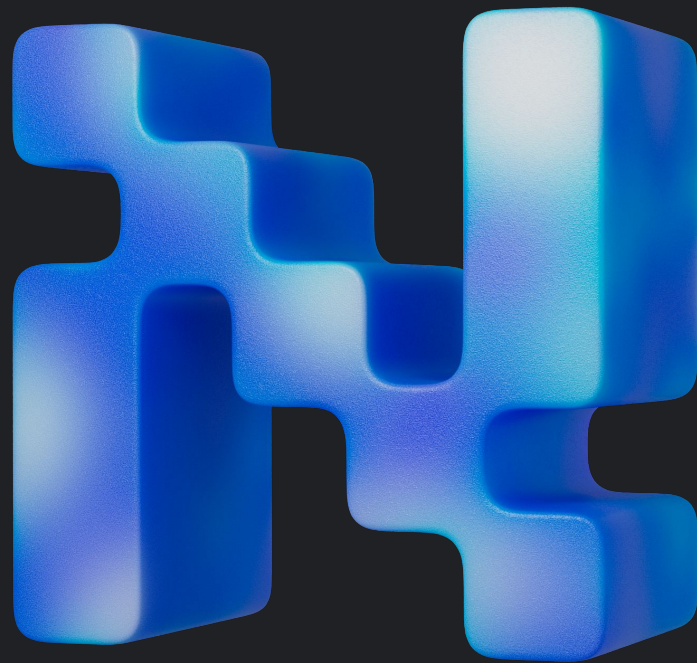
細川 巧

沖縄県 CDO 補佐官



- 01 財政との闘い
- 02 仕様検討
- 03 自立する職員
- 04 目指している新しい働き方

01. 財政との闘い



迫り来る危機： 集計や調整に 追われる若者たち

当然、IT 投資よりも県民生活優先
ずっと後回しになっていた
終わりのない非効率

非効率や企業で不思議な働き方を列挙しても、
使っていないので理解してもらえない

ストップ！辞めていく若者

財政課を動かす「説得の方程式」



漠然とした「忙しさ」では予算は下りない。時間を給与基準で可視化することで、
IT 投資を「コスト」から「確実なリターン」へと反転させた。

初期導入 +5 年運用費用 - スクラップ&ビルド < 可処分時間の金額

多角的に、チャレンジ企画や業務プロセス見直しにもエントリー

02. 仕様検討



仕様策定における差異確認と構成の最適化

仕様書作成と要件の精緻化

特定の製品に縛られない「機能主体の仕様書」を軸に、実態に即した要件定義を実施

- ・ 詳細な機能一覧表に基づき、必要十分な仕様を定義
- ・ **M365 は設計要素が多岐にわたり、初期構築費が高騰**する傾向を考慮
- ・ M365 は、サンドボックス化されているのはメールのみ。ゼロトラスト化には、E5 セキュリティが必要。

沖縄県における適合性と構成

既存の Apps 利用継続により、クラウドツールへの移行障壁を最小化

- ・ **スプレッドシート併用により、操作感のハレーションを回避**
- ・ 現行製品構成 : M365 Apps + Desknet's+ IMAP4
- ・ **不足機能はアドオンや開発(Google App Script 等)で柔軟に補完**

製品比較と最適化のポイント

▼ コスト・設計の差異

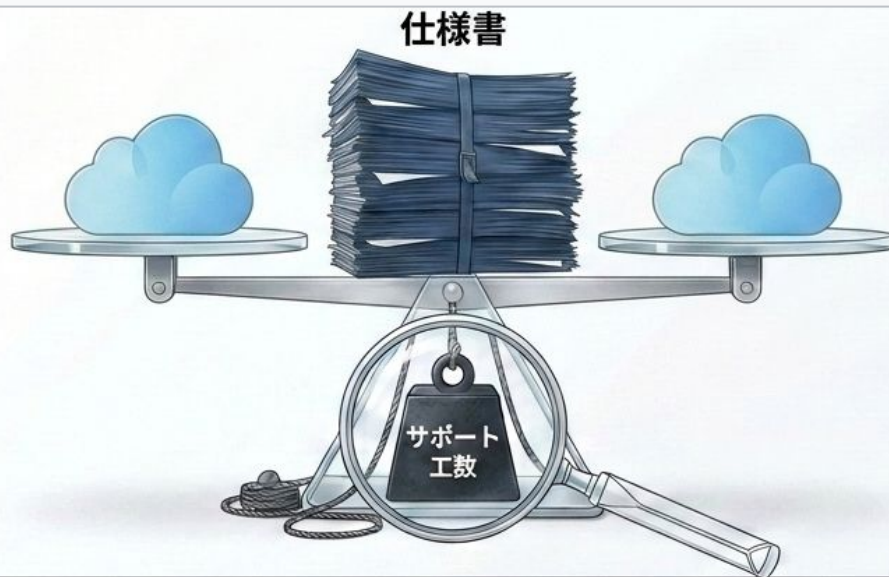
M365 はライセンス体系が複雑で、E3 や EMS 等の多重なコンポーネント設計が必要となり、工数とコストが積み上がる傾向にある。

▼ 不足機能への対応提案

基本構成で不足する機能については、特定の製品に依存せず、業務要件に最適な補完策(サードパーティ製品や内製ツール)の提案を推奨する。

コラボレーションツールの罫:「機能比較」の限界

Google Workspace と M365 は、コラボレーション部分の基本機能は大きく変わらない



仕様書の細かな差異を確認した結果、真の差は「機能」ではなく、
導入後の「サポート工数の少なさ」にあると判明。

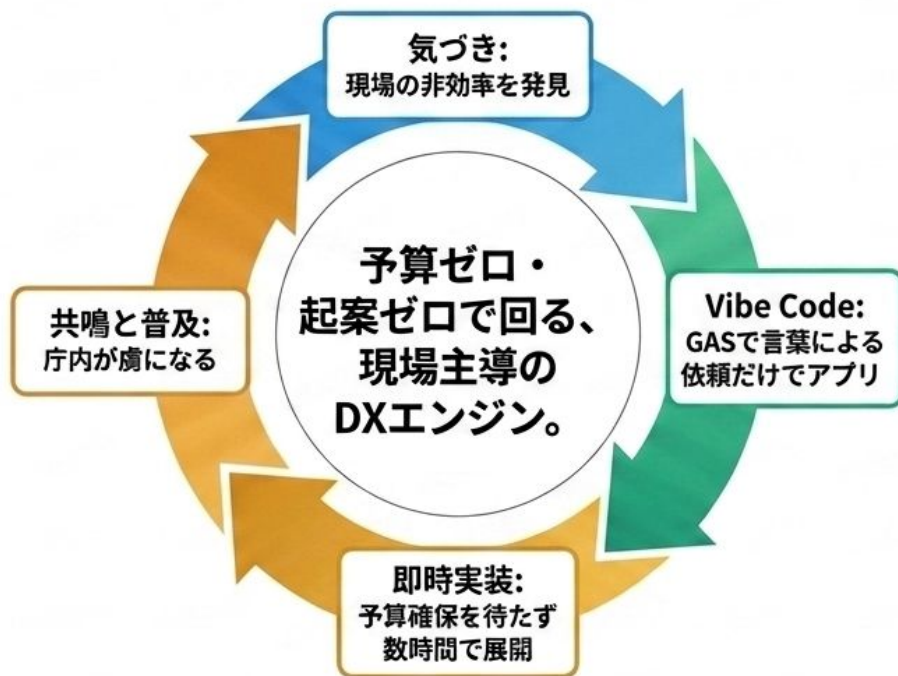
Google Workspace を利用すればサポート工数が少ない

- IT のプロが居ない状態でも利用可能
- 利用促進を放置した場合、利用者は Google Workspace 7 割、M365 は 3 割となった
- 結論は、M365 は IT 会社等が使うもので、自治体職員には、M365 は使い切れない(BtoC 思考ではない)
- サポートや定着支援で、年間数千万円単位で差が出る

Google
Workspace



Vibe Coding で進める自立的改善のサイクル



Excelマクロで作成→ 次の担当がメンテ不能
旧来の直線的プロセス: 課題発見 → 予算申請 → 待機 → 頓挫

03. 自立する職員



Vibe Coding（ちょっとしたアプリ・運用ツールが自分で作れる）

一般職員が作成したもの

- アカウ^{ント}の自動作成ツール
- ま^{ったく} IT 知^識の^{ない}人^で、フ^{リー}ア^ドレ^スの座^席予^約が 3 時^間で作^成



足りない機能も Vibe Coding

- カレンダー機能に不足しているグループカレンダーを作成
 - 予約可能期間の設定
- Gemini に従うだけ

開発ツールの比較: M365 / Kintone / PowerApps vs. Google App Script

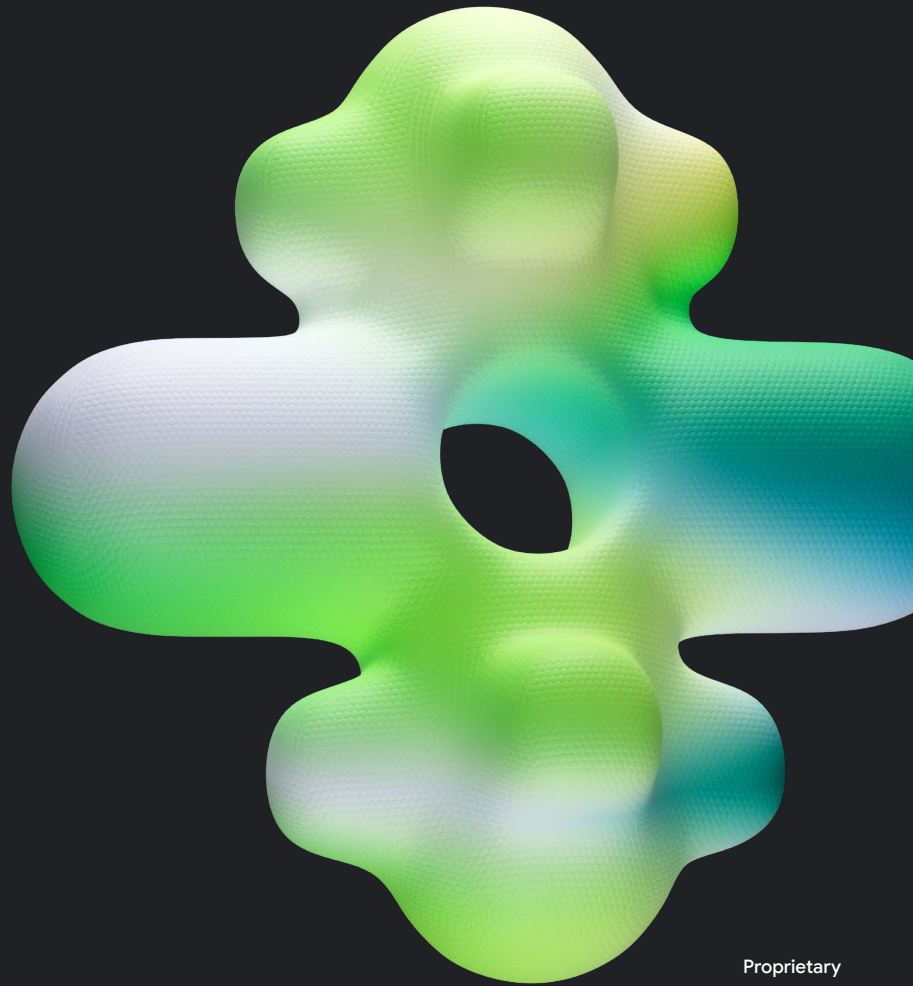
M365 / Kintone / PowerApps

- 
- 開発環境から作る必要あり
 - 小難しい
 - 一般職員には作れない
- BtoC で作ってきた UI ではない
のが原因か？

Google Apps Script (GAS)

- 
- 簡単に作れる
 - 予算が確保されなくても簡単に直ぐ作れるローコード
 - 自治体に最適

04. 目指している 新しい働き方



余裕を生み出すためのアーキテクチャ

組織と個人の持続可能性のために

- 非効率からの脱却: 終わりのない作業から、価値ある活動へ
- 創造性のための空間: 新しいアイデアやイノベーションが生まれる場所
- 人材の定着と成長: 魅力的な職場環境と、成長の機会

DX 活動はいつするの？

日常業務で忙しいのに、
新たなことをする時間も
労力も割けない

→**可処分時間を確保**



まず、生成 AI やコラボレーションツールなどで、
作業の時間を減らして、
創造的な時間を増やす。そして
自分の時間も増やす。



ツールから、不可欠なインフラへ

“**「現場が勝手に使いこなしている」
「無いと暴動が起こる」**

検証期間中だけで、庁内に劇的な変化が起きた。
「使わされるシステム」ではなく、誰もが「虜」になる
クリエイティブなプラットフォームへの進化。

通知文をたくさん読まないといけないけど、5分で聞く

Google Workspace 導入がもたらす、究極の組織防衛

Google Workspace の選択は、単なるソフトウェアの導入ではない。若手職員の心を繋ぎ留め、自治体の未来を守るための「生存戦略」である。

**ストップ！
辞めていく若者**

集計作業から、住民のための
創造的業務へシフト

「可処分時間」の誕生

引き算「やめることから始める DX」

誰でも使える IT 基盤

次なる飛躍への地盤：ゼロトラストと日常使いのクラウド



日常使いのクラウド

堅牢でありながら、息をするようにクラウドを「普段使い」できる環境が、次の革新 (AI) を受け入れる土壌となる。

強固なセキュリティ基盤が既に整備されている。

ゼロトラスト移行完了

行政も

AI チャットの時代は終わり、AI エージェントの時代へ



単体で動くAIチャット。
業務プロセスから分断されている。



Gemini や Gemini Notebook を、
行政・**バックオフィス業務**の
プロセス自体に組み込む。

「業務アプリへの組み込みを業者任せにしている、DXは進まない。」

ツール選びではない。未来の「余裕」をデザインする決断。



Google Workspace がもたらす直感的な開発環境と低負担な運用は、
職員から無駄な時間を奪い去り、新たな政策を生み出す「可処分時間」を与えます。

集計に追われる若者を救い、行政サービスの質を次世代へ繋ぐ。

Google Workspace による「余裕のアーキテクチャ」が、私たちの自治体をアップデートします。

Thank you

Google
Cloud
Next

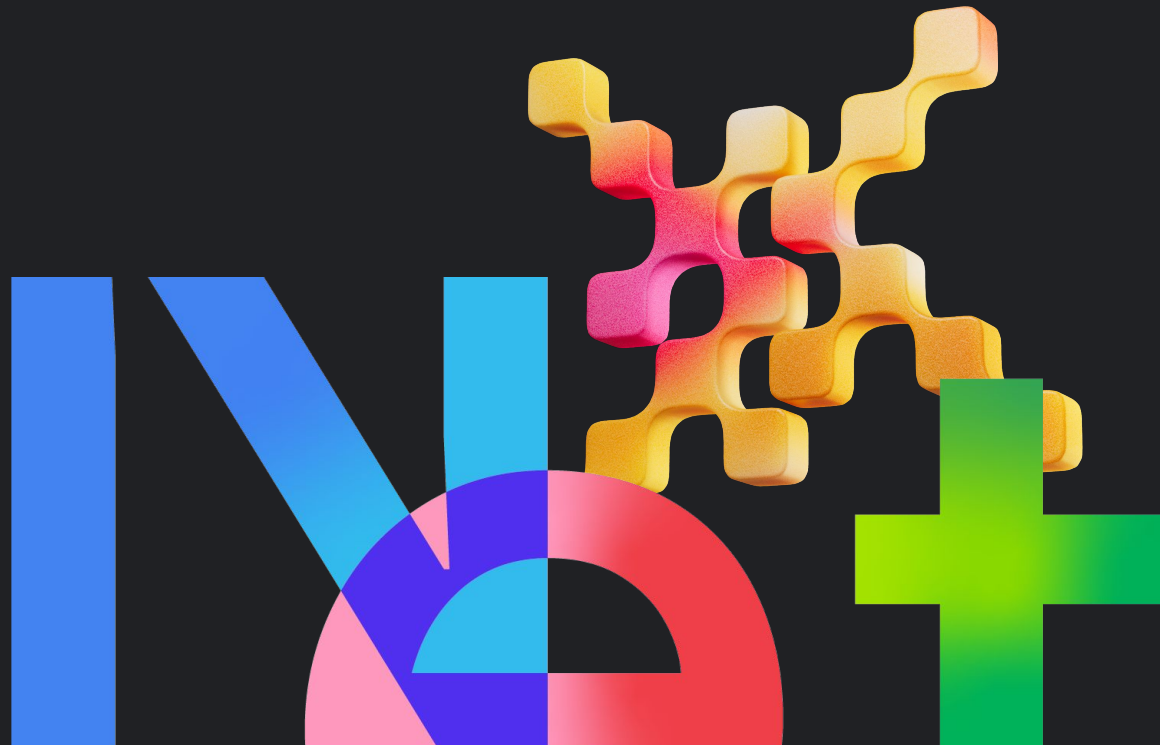
Tokyo



AI×EBPM で行政を再定義。 足立区が挑む業務・経営改革

Google
Cloud
Next

Tokyo





勝田 実

足立区 副区長



高橋 皇介

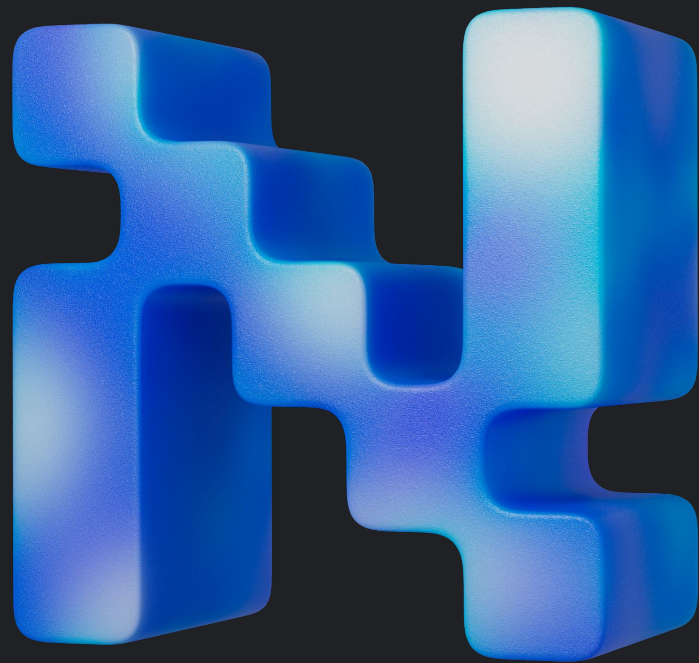
足立区 CDO 補佐官

AI×EBPM で行政 を再定義。 足立区が挑む業 務・経営改革



- 01 足立区ってどんなところ？
- 02 最先端技術を行政の最前線に。
- 03 社会課題へ挑むイノベーション。
- 04 足立区の未来：ADACHI NEXT

01. 足立区って どんなところ？



足立区の紹介

「やりたいことが叶うまち」

江戸時代に宿場町として栄えた千住を中心に発展。近年では6つの大学を中心に新たなにぎわいも。

2025年度からは「やりたいことが叶うまち」テーマに新たな歩みがスタートした。





足立区の紹介

官 × 民で都市の未来を描く。

フルセット主義の従来型行政からの脱却を目指し、テクノロジーとデータを駆使した「オープンイノベーション」による変革を進める。



Proprietary

02.最先端技術を 行政の最前線に。



未来協創に向けた包括連携協定

地域の課題を「制約」から「可能性」に変え、未来の選択肢を大きく広げる。

2025 年 9 月、足立区とグーグル・クラウド・ジャパン合同会社がイノベーションパートナーとして包括連携協定を締結。世界の最先端テクノロジーを行政の現場に。



包括連携協定が目指す 3つの柱

サービス向上とエンゲージメント向上を両立する。



地域・行政課題解決

最先端 AI 技術を活用し、区民一人ひとりのニーズに寄り添った、質の高く
便利な行政サービスの実現と地域が
抱える課題の解決を目指す。



新しい働き方

AI・コラボレーション基盤の導入によ
り、時間や場所にとらわれない柔軟で
新しい働き方を実現し、一人ひとりが
笑顔で働ける職場に。



次世代基盤と EBPM

データを活用した客観的な政策立案
(EBPM)を推進するとともに、デジタル
社会の変化に対応するセキュアな次世
代基盤を構築する。

最先端 AI が業務の在り方を大変革

あれも ✨ Gemini がやったの？

日々降りかかる大量の業務の中、職員が初めに相談するのは「Gemini」。この前は、外国人住民に役立つ動画を 10 言語で作成して MVP に。



AI が日常のパートナーとして寄り添う

今日も Gemini Notebook が手放せない

庁内には 20 を超えるチャットボットが存在。毎日の困りごとはもちろん、業務の論点整理も簡潔に。議会对応中のお供にも。



新たなパートナーが示す業務の再定義

業務改革を支える頼もしい相棒、全庁導入を検討へ。

Google Workspace

 chrome enterprise

AI とゼロトラスト環境が支える業務改革

Google Workspace (GWS)・Chrome Enterprise Premium (CEP)の全庁的な導入に向けて調整中。

強固なセキュリティ環境下でコラボレーションを加速させ、職員の業務効率を飛躍的に向上。創出された時間をより高度な企画立案や区民との直接的な対話へとシフトさせる。

03. 社会課題へ挑む イノベーション。



NEC 様: AI エージェント × EBPM

AI エージェントが施策評価・分析をサポート。

NEC 様との共創プロジェクト。各種行政データや区独自データを統合・解析し、AI エージェントとして機能する政策ダッシュボードの実証を進める。データに基づく根拠ある政策立案(EBPM)を AI が強力にアシストする。



NEC 様実証:デモ画面 ①

専用 AI が分析結果を回答

区内の防犯カメラの設置状況と犯罪発生件数の相関関係を、地区名をマスキングしたうえで分析して

【問題理解】 足立区内の各地区における「防犯カメラの設置状況（台数）」と「犯罪発生件数」の相関関係について、地区名をマスキングした上で分析・可視化を行います。

【分析結果】 足立区内の84地区を対象に、防犯カメラ設置台数と犯罪発生件数の相関を分析した結果、以下の傾向が確認されました。

- ・ 相関係数: 約0.67（中程度～強い正の相関）
- ・ 考察: 防犯カメラの設置台数が多い地区ほど、犯罪発生件数も多いという「正の相関」が見られました。この結果から、以下の要因・背景が推測されます。
 1. 対策としての設置: 過去に犯罪が多く発生しているエリア（治安的課題がある地区）に対して、重点的に防犯カメラが設置されている可能性が高いです。
 2. 人口・繁華街の影響: 人口密集地や駅前の繁華街など、人が多く集まるエリアでは必然的に犯罪発生件数が増加し、同時に防犯対策（カメラ設置）も強化されるため、両者が比例して高くなっていると考えられます。

【可視化グラフ】 各地区（地区名はマスキング済み）の分布を示す散布図を作成しました。

【深掘り分析の提案】 現在の分析では「総犯罪件数」を用いていますが、防犯カメラの抑止効果は犯罪の種類によって異なる可能性があります。もしよろしければ、「自転車盗や車上ねらいなどの非侵入窃盗」と「空き巣などの侵入窃盗」など、特定の犯罪種別に絞った相関分析を実施して深掘りしてみますか？

引用元情報

1. 防犯ダッシュボード
 - ワークブック「01_罪種別刑法犯認知件数」のビュー「罪種別刑法犯認知件数」
2. データ基盤 (BigQuery)

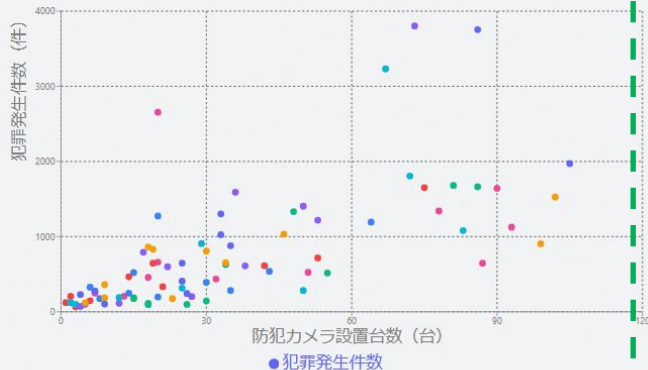
成果物

1 / 2

グラフ

データ

防犯カメラ設置台数と犯罪発生件数の相関（地区名マスキング）



グラフを動的に生成

AI とチャットしながら分析

NEC 様実証:デモ画面 ②

区内の防犯カメラの設置状況と犯罪発生件数の相関関係を、地区名をマスキングしたうえで分析してください。

【問題理解】 足立区内の各地区における「防犯カメラの設置状況（台数）」と「犯罪発生件数」の相関関係について、地区名をマスキングした上で分析・可視化を行います。

【分析結果】 足立区内の84地区を対象に、防犯カメラ設置台数と犯罪発生件数の相関を分析した結果、以下の傾向が確認されました。

- **相関係数: 約0.67**（中程度～強い正の相関）
- **考察:** 防犯カメラの設置台数が多い地区ほど、犯罪発生件数も多いという「正の相関」が見られました。この結果から、以下の要因・背景が推測されます。
 1. **対策としての設置:** 過去に犯罪が多く発生しているエリア（治安的課題がある地区）に対して、重点的に防犯カメラが設置されている可能性が高いです。
 2. **人口・繁華街の影響:** 人口密集地や駅前の繁華街など、人が多く集まるエリアでは必然的に犯罪発生件数が増加し、同時に防犯対策（カメラ設置）も強化されるため、両者が比例して高くなっていると考えられます。

【可視化グラフ】 各地区（地区名はマスキング済み）の分布を示す散布図を作成しました。

【深掘り分析の提案】 現在の分析では「総犯罪件数」を用いていますが、防犯カメラの抑止効果は犯罪の種類によって異なる可能性があります。もしよろしければ、「自転車盗や車上ねらいなどの非侵入窃盗」と「空き巣などの侵入窃盗」など、特定の犯罪種別に絞った相関分析を実施して深掘りしてみますか？

メッセージを入力...

成果物

グラフ

データ

Tableau Image

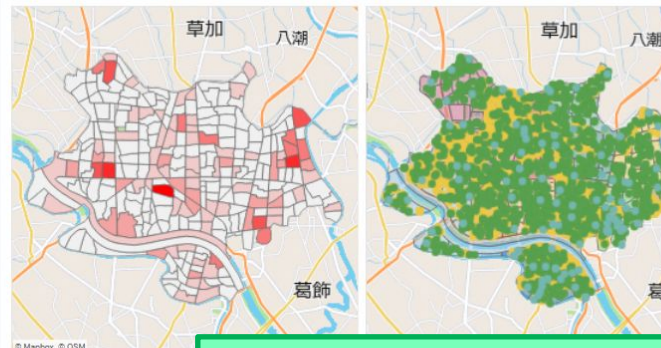
件数	前月件数(当月度)	前年同月件数(当月度)	年度	年月	地域
146	107 (+39)	98 (+48)	2026	2026年5月	[すべて]

犯罪件数マップ

件数

防犯カメラマップ

犯罪件数マップ内の件数を選択すると、選択した町名で防犯カメラマップのデータを絞り込むことができます。



作成したダッシュボードを表示して視覚的に分析

NEC 様実証:デモ画面 ③

自転車盗や車上ねらいなどの非侵入窃盗について他自治体との比較も含めて詳細に分析してください。

【問題理解】 自転車盗や車上ねらいをはじめとする「非侵入窃盗」について、足立区の発生状況を東京都内の他自治体（区市町村）と比較し、相対的な位置づけや特徴を分析します。

【分析結果】 東京都内の全自治体を対象に、非侵入窃盗の累計発生件数（全期間）を集計・比較した結果、足立区には以下のような特徴があることが分かりました。

1. 非侵入窃盗全体（万引き・すり等を含む）の順位：都内5位

- 1位: 新宿区 (50,435件)
- 2位: 世田谷区 (47,473件)
- 3位: 江戸川区 (47,200件)
- 4位: 大田区 (45,753件)
- 5位: 足立区 (45,480件) 足立区は都内で5番目に多く、人口規模の大きい世田谷区・江戸川区・大田区や、繁華街を抱える新宿区に次ぐ水準となっています。

2. 自転車盗の順位：都内5位

- 1位: 世田谷区 (28,826件)
- 2位: 江戸川区 (26,950件)
- 3位: 大田区 (26,456件)
- 4位: 練馬区 (25,886件)

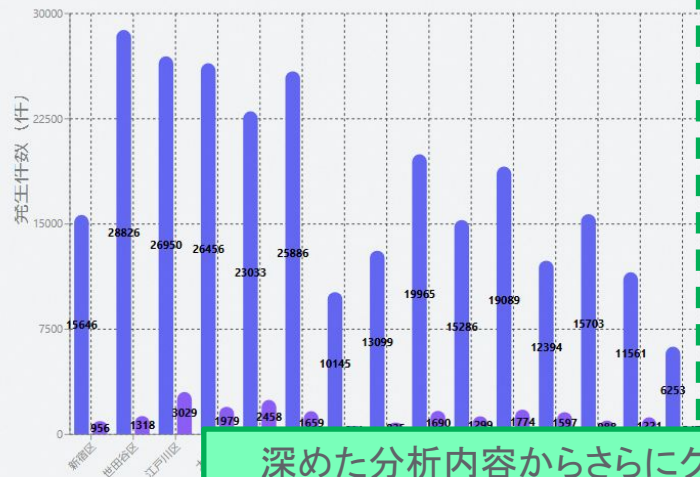
AI と対話しながら、直感的に分析を深める

成果物

グラフ

データ

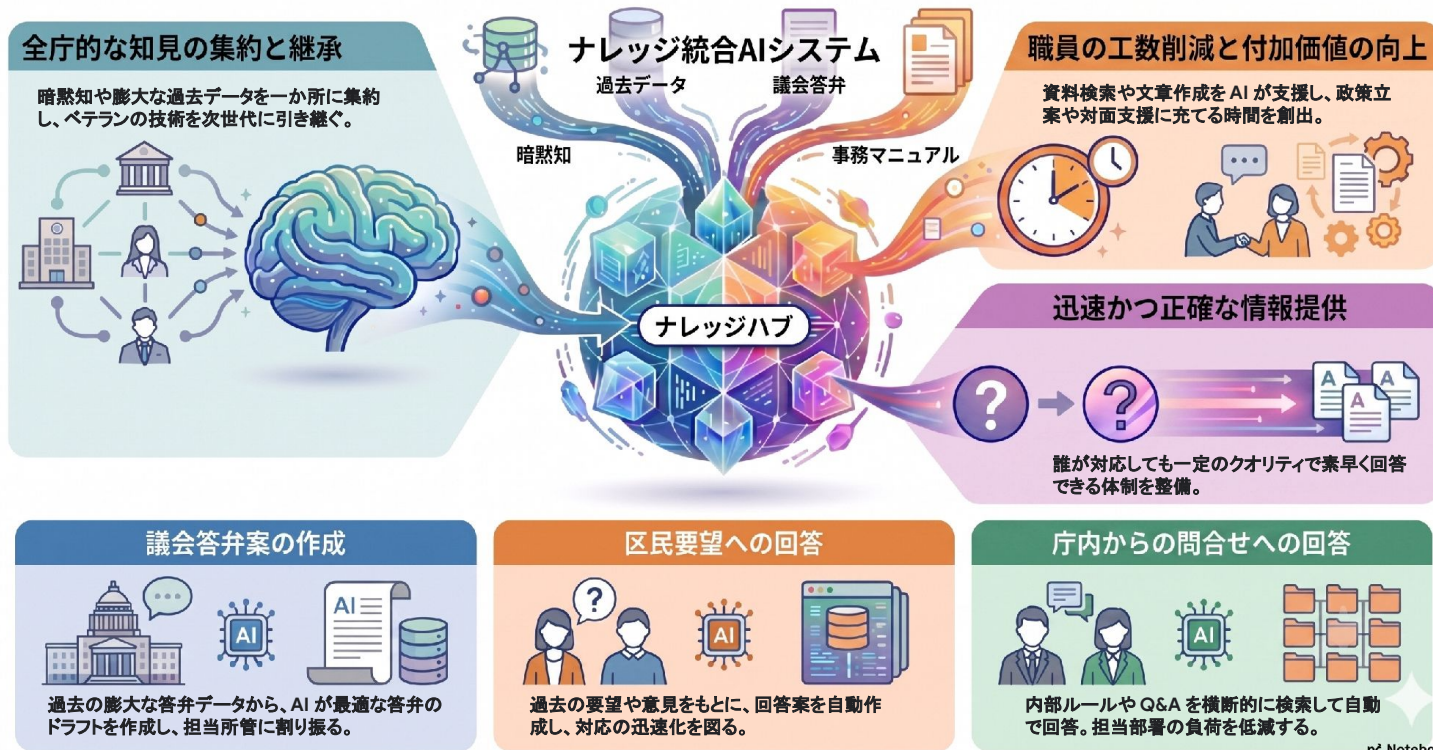
他自治体との比較：非侵入窃盗の発生件数（上位15自治体）



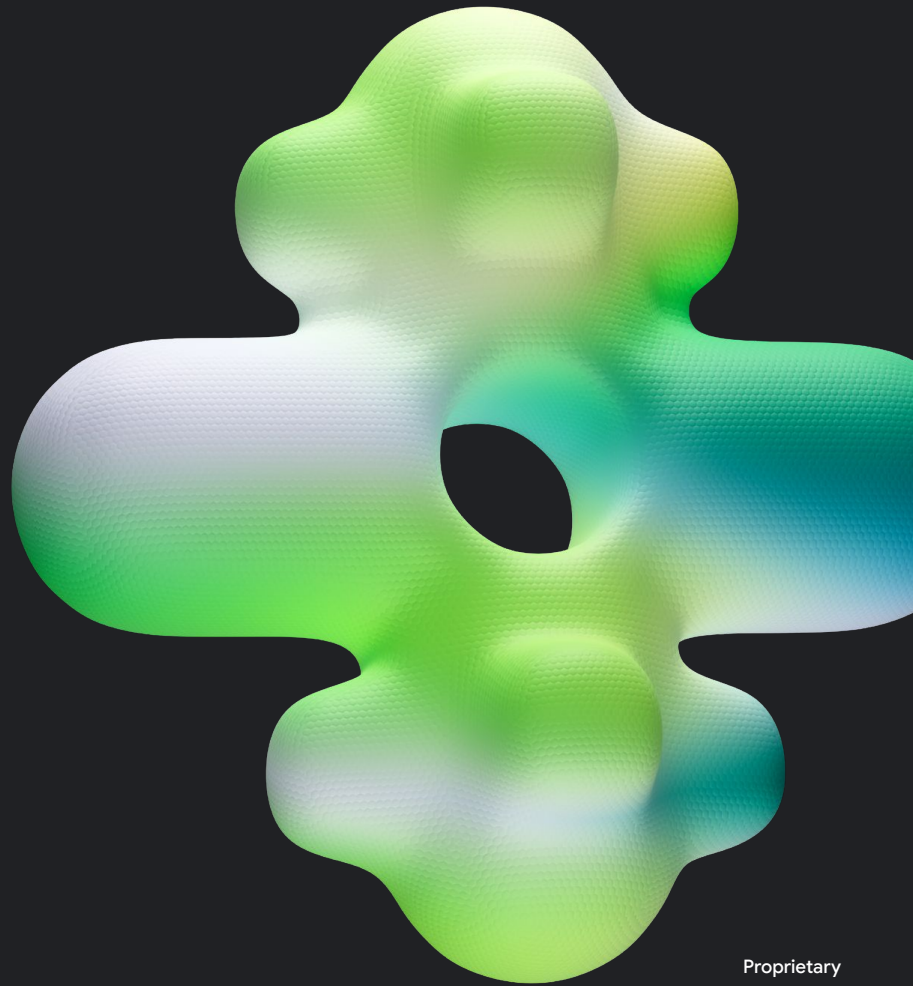
深めた分析内容からさらにグラフを生成

富士通 Japan 様: AI エージェント × 行政ナレッジ

地方自治体の持続可能性を高め、未来を創る「行政ナレッジの統合」



04.足立区の未来 : ADACHI NEXT



Gemini Enterprise の実証へ

議会答弁作成で得たノウハウを次の業務に。

✦ Gemini Enterprise



実機トライアル

Gemini Enterprise (GE) の検証環境で実際にシステムに触れる体験を通じて、具体的な業務への適用要件を洗い出す。



住民意見の活用

収集した「区民の声」を GE の高度な分析能力で構造化。要望への回答文作成に加え、隠れたニーズの抽出から政策立案への展開を検討。



適用範囲の拡大

富士通 Japan 様との連携等を含め、議会答弁等の単一ユースケースに留まらず、GE の適用範囲を全庁の複数業務へ拡大するプロセスを検証。

足立区の未来とは。

歩みを止めず、その先へ。



Thank you

Google
Cloud
Next

Tokyo

